

△▲▲△ 冬山・雪山シリーズ 第3回 △▲▲△

～雪山初心者、冬の赤岳に行ってみた～

(報告) M.T

◎日程：2019年1月19日～20日

◎メンバー：会員4名 (M.K, T.F, T.K, M.T)

昨冬の安達太良山、11月の富士山に続く、雪山初心者のアイゼン山行3回目のレポートとなる。まずは道具について。

登山予定日の天気予報は悪天候。雪、強風、低温。体感温度はマイナス30度にもなりそうな気配なので、新たにゴーグルとグローブを追加調達することにした。

今回もまた、靴とアイゼンでお世話になったお店に向かい、すっかり顔なじみとなった店員さんに相談。高価なゴーグルが並ぶ中、「偏光は少し暗くなる。悪天候時に使うなら明るいものの方がいいのでは？」と、こちらの懐具合もそれとなく察して、偏光でないお値頃のを薦めてくれた。天気のいい時はサングラスを使うので問題なし。

グローブは、ウールのしっかりしたインナーとゴアテックスのアウトアの組み合わせが最強との薦めがあり、その方向で考えていたが、後日、取り寄せてもらったサイズSのアウトアが思いの外大きく、方針転換。薄いインナーに、まだ少し大きいけれど、柔らかくて気持ちのいい分厚いグローブを組み合わせることにした。

体感温度マイナス30度でも大丈夫？ と聞くと、きっぱり「大丈夫です」と答えてくれたので、よし、この言葉、信用する、と購入決定。手の大きさに合うグローブはなかなか見つからず、「すみません、品揃えが少なく」と謝られてしまったけれど、後から振り返ればとても良い買い物だったと思う。

前回の富士山でほんの少し丸くなったアイゼンの爪を尖らせ、グローブでアイゼンの紐の始末もできるよう練習して、同行のメンバーと落ち合った。

初日は移動日。最高の天気。笹子トンネルを抜けてだらだらとした下り坂を甲府方面に進むと、まずは目の前に甲斐駒様。続いて鳳凰、北岳、間ノ岳。更にその南の山々まで、こんなに見えるんだっけ？ 空気が澄んでいて、いつもより山が近い。やがて目標の八ヶ岳も姿を現す。こちらも雲一つなし。やがて茅野の辺りまで行くと、正面に少しかすんだ白い峰々が見えたような？ すぐに視界から消えてしまい、幻だったのかと思ったが、諏訪で中央道を降りるとちゃんと左側に見えてくれた。「あれは穂高では？ その右側の切れ落ちているところは大キレット」とリーダー。そうか、早くも茅野の辺りで北アルプスの気配があるんだ。まさか諏訪の手前で見えるなんて。身近なところから世界が広がる！

美濃戸では奥の駐車場まで車を乗り入れた。駐車場には全く雪がない。身支度をして、北沢コースから赤岳鉱泉に向けて出発。

しばらく歩くと、少しずつ道が雪をかぶるようになってきた。日陰でつるつるに凍ったところがあり、ここで足に爪をつける。私はチェンスパイク、他の皆さんはアイゼン。他のパーティもアイゼンとチェンスパイク、半々くらいだ。

途中の堰堤でちょうど正午、昼食にする。この堰堤が凍っており、リーダーがさっそく両手にピッケルを持って登り始めた。私もちょっとやってみたかったけれど、チェンスパイクだったので、写真だけパチリ。



(堰堤でアイスクライミング)

昼食を終えて出発。時間の記録のためにカメラを起動したら、その瞬間、落ちた。カメラの電源が落ちた。全く起動せず。さっぱり訳が分からない。買ってから5年以上たっているのに、ついにバッテリーも力尽きたか。というわけで、今回は写真がほとんどありません。なお、帰宅後、バッテリーの抜き差しをしたらあっさり復活。冬の八ヶ岳はカメラちゃんには寒すぎたかも。気を失ってしまったようだ。

13時半ごろ、赤岳鉱泉に到着。庭の全予約制アイスクャンディに、人が沢山取りついている。客が多く玄関は大混雑。部屋も相部屋になり、押し入れまで割り当てられるような始末。着替えができるので自分で押し入れを希望したけれど寒そうだな、と若干心配になる。が、まずは雪訓のため、身支度して近くのジョーゴ沢へ。移動中はアイゼンをつけた歩き方を改めて意識づける。

沢では凍った斜面を使って、上り下りの練習。ロープで確保してもらいつつ、アイゼンの前爪をしっかり打ち付け、左右の手にピッケルを持って登ってみる。

その少し前にテレビで、内藤大助がアラスカでアイスクライミングをする番組を見た。アイゼンの前爪を刺すときは、まっすぐ、というのは頭に入っていた。爪の先が僅かしか刺さっていないように見えても、つるつと滑らなければそれでいいのだ。自分の体重が支えられればいい訳だ。前回の富士山で、ピッケルを氷に打ち付けるときの感覚も少しわかったので、こういうことだな、とイメージしながらやってみる。



(凍った沢を下りる)

ルートはガツツと自分で作る。透明に凍った氷の内側に、沢の水が勢いよく流れているのが見える。美しい。

「こ、これは・・・。面白いんじゃないか!？」アイスクライミングに開眼。しちゃったかもしれない。次にピッケルを買うときは、カマキリ型2本か?

沢の右側のふかふかの新雪の斜面では、滑落防止訓練をした。やってみると意外と止まらないもので、本気で止めにかからないとずるずると滑っていく。体験してみてよかった。

そうこうするうちに16時半近くになり、慌てて小屋に戻る。ステーキな夕食は17時から。翌日の天気予報がテレビモニターに表示されている。それによると麓の富士見町では翌日午前中から雪や雨のマークが出ている。やはり、天気は良くないようだ。

夕食後、お客さんの入りも落ち着いたようで、同室の男性3人組は他の部屋へ移動。そこそこ広い相部屋を我々4人で使えることになった。大喜びで寒い押し入れを出て、暖かい寝床を確保した。

翌日、支度の遅い私は早めに起床。それでもやはり、一番準備の遅い私であった。雪山は身に付ける物が沢山あって、順番をよく考えて準備しておかないと、すぐに時間

が過ぎてしまう。

一旦、行者小屋まで移動し、そこで荷物をデポして赤岳に向かうこととなった。途中、先日の雪山机上講習で説明のあった雪崩地点はどの辺りかな、などと考えながら淡々と歩行。行者小屋でリーダーが木陰に皆の荷物をまとめてくれ、いよいよ地藏尾根経由で、冬の赤岳に挑戦だ。

山の天気は既に崩れていて、早朝から雪が降っている状態。標高が高くなると風も強くなるはず。さあ、どこまで行けるだろう? 稜線のお地藏さんを拝めるといいのだけれど。

急坂を登っていくと、案の定だんだん風が出てきた。前日登頂した人々が足早に下りてくる。すれ違うたびに、リーダーが、上の様子はどうですか、風は？ と聞く。

「すごいです」「顔が痛いです」「昨日はよかったんですけれど」と、返事が返ってくる。とにかく風は強そうだ。とはいうものの、前日の登頂、強風を乗り越えてきた達成感と、風の弱い場所まで下りてきた安心感か、なんとなくウキウキと楽しそうな顔。「頑張ってください」と声をかけられ、もう少し進んでみる。

途中からリーダーと二人となったが、とりあえず鉄階段までは上がってみることにした。爪の長いアイゼンを付けながらの階段は初めて。雪が降っていることもあり、感覚を確認しながらゆっくりと登る。

階段上でリーダーと顔を合わせ、まあ、今回はここまでかな、と引き返すことにした。お地藏さんはもうすぐだったはず。少し残念だが、風も強くなってきたので、いい頃合いだろう。

下りはまたロープで確保してもらい、滑らないように手元足元を確認しながら、慎重に階段を下りる。

雪の下り道はカウボーイ。足を肩幅近くまで開いて、やや腰を落とす。そのままアイゼンをしっかり地面につけて下りる。急なところは体を斜めに。頭の中にちょうどいいテンポの音楽を流して、リズムカルに下る。

雪が降りしきる行者小屋の庭でデポした荷物を詰め直し、ちょっと腹ごしらえ。私はここでチェーンスパイクに履き替えた。歯が立たなかったのは、小屋の前の新雪がたまっている短い斜面だけで、ここは尻餅をついたついでにシリセードでするする通過。それ以降は快適に歩けた。

南沢経由で到着した駐車場は、今日は真っ白。絶え間ない雪の中、急いで道具を外して出発。温泉で暖まって昼食をとり中央道へ。日曜日の午後だったが渋滞は全くなく、真っ暗になる前に家に着けた。

今回も登頂はならなかったが、天候のせいなので仕方がない。達成の喜びは次の機会へ。道具の多さが面倒な雪山も、もう少し慣れると気持ちが楽になるだろう。アイゼン歩行も楽しかった。アイスクライミングもなんだか面白そうだし。新しい世界が開けた八ヶ岳となった。そして今回も、ご同行くださった皆さんに深く感謝。

<コースタイム>

1月19日

10:45 赤岳山荘駐車場発 — 11:20 アイゼン着用 — 11:55-12:16 昼食、堰堤の氷瀑でアイスクライミング — 13:37 赤岳鉱泉 — 14:50-16:23 ジョーゴ沢F1にて、ピッケルアイゼンワーク等 — 16:37 赤岳鉱泉

1月20日

6:25 赤岳鉱泉発 — 6:58-7:05 中山乗越 — 7:11-7:25 行者小屋 — 8:10 地藏尾根 鉄の階段上部より戻り — 8:40-9:03 行者小屋 — 11:24 赤岳山荘駐車場着



(階段の上で引き返した)